

HOT NEWS

雲仙復興事務所

平成24年2月1日

JICA研修生 火山の総合防災を学ぶ！

発信元

雲仙復興事務所

調査・品質確保課 大鷹 祥子

1月26日(木)、JICA研修生計18名(15カ国:東南アジア等)が当事務所に来所されました。「総合防災行政コース」として、午前中は当事務所概要・工事イメージアップ・ジオパーク概要について、説明を受け、午後からは大野木場砂防監視所にて、被災した旧大野木場小学校を見学、また現在でも巨大な溶岩ドームが不安定な状態で存在する火山の山体監視、避難警報システム、無人化施工の説明などを受けました。その後、定点(災害当時のマスコミの観測位置)に移動し、普賢岳噴火の凄まじさが残る現場を見学しました。

研修生からは、次のような質問がされ、今後、各々の国で今回の研修が役に立つことを期待したいと思いました。

○質問:雲仙・普賢岳噴火災害を受けて島原のまちづくりがどう変わったか？

→答え:土石流によって甚大な被害を受けた安中地区では、嵩上げを行い、災害に強いまちづくりを行った。また嵩上げを行うにあたっては土石流の土砂を利用するなど工夫した。

○質問:無人化施工は普通の工事に比べて効率はどの程度か？

→答え:おおよそ70%。ただし施工者の熟練度によって異なる。

○質問:無人化施工でどの様にコンクリートを固めているのか？

→答え:土砂型枠を作って、固めている。

